

■最近の話題を考える“知財NEWS” 知財トピックス (2015.1)

「特許電子図書館 (IPDL)」から「特許情報プラットフォーム  
(英語名 : Japan Platform for Patent Information、略称 : J-PlatPat)」へ

特許業務法人 前田特許事務所  
弁理士 大石憲一



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いします。

さて、新年最初の知財ニュースは、今年の3月23日から運用が開始される「特許情報プラットフォーム」についてです。

この「特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)」は、今までの「特許電子図書館 (IPDL)」に変わり運用される無料の公的な特許情報等の検索サービスです。

「特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)」の特実公報テキスト検索画面

詳細な操作方法については、各地で説明会が開催されますので、そちらで確認して頂くとして(広島:「広島YMCA国際文化センター」1月29日(木)開催)、現行のIPDLの検索画面と大きく異なるのは、(1)非特許文献も一括検索が可能となったこと(上記検索画面の②項目)、(2)テキスト検索項目にFタームが採用されたこと(検索画面の③項目)、(3)テキスト検索画面に論理式検索機能が追加されたこと(検索画面の⑤項目)です。

確か、現行のIPDLが運用開始されたのが1999年ですが、当時特許調査といえば「特許公報の手捲り」が常識であったのに対して、IPDLでは「ネットで簡単に検索できる、それも無料で…」ということで、かなり衝撃を覚えた記憶があります。

運用開始が3月23日で、特許業界にとっては期末の忙しい時期ですが、今回のJ-PlatPatには、使い勝手が悪化することなく、より適切な特許情報が検索できることを期待したいです。

以上